

成果情報の記載方法について（府県用）

※農研機構から提出する場合は所から配付された様式に従うこと

1. 書き方

- ・ Word または一太郎を使用
- ・ 文章は原則として現在形で記述
- ・ 利用者の立場に立ち、一般（他分野）の人にも理解できるよう平易な文章で記述

2. 記載方法

- ・ 代表連絡先のメールアドレス原則不記載
- ・ 罫線は使用不可

3. ファイル名

- ・ 府県名＋成果の略称(普及 or 研究)＋作成月日．拡張子
例： 滋賀飼料イネ給与肥育牛(普)0129. doc

4. ファイルサイズ

成果情報の事前検討を行う際に、ファイルサイズが大きいことにより関係機関にメール送付できないことがあるため、ファイル全体のサイズを2MB以下になるように調整する。

5. その他

Excel 等の図表をそのまま貼り付けた場合、事務局で正しく表示されないことが多いので、他のパソコンで必ず表示を確認して提出する。

※黒字はそのまま変更しない。水色部分を記載。

[成果情報名] 10.5 ポイント、1 行以内、サブタイトル不可

[要約].....。

10.5 ポイント、3行以内、情報の内容を簡潔かつ平易に記載

[キーワード] △△△△、△△△△ 1行以内、5つ以下

[担当]○○研究部、□□研究室、△△チーム

主たる実施部署である研究部、研究チーム等は略さず記載。

※ [成果情報名] ~ [分類] 記載事項
中は改行コードを使用しない。

[代表連絡先] 電話 029-838-****

担当部署または研究所の電話番号を記載。メールアドレスは原則不記載。

[研究所名] □□□□研究所、共同研究機関がある場合は続けて記載。

主に担当した研究所名は略さずに記載。

[分類] 普及成果情報 or 研究成果情報

「成果情報の分類について」参照。「普及成果情報」または「研究成果情報」のいずれかを選択。

[背景・ねらい]

.....
を目指したものである。.....
を開発し、効果を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1.は.....である。
2.は.....により.....となる。
- 3.
- 4.
- 5.

- ・ 1 課題あたり A4 版縦置き 2 頁程度、3 頁以内。上下・左右余白 2.5cm
- ・ 文章は原則として現在形。
- ・ 括弧は全角「（）」、全角句読点「、」「。」を使う。
- ・ 本文中改行する場所以外では、改行コードを挿入しない。
- ・ 本文中体裁を整える必要がある場合には、インデントの設定により行う。（段落中にスペース・タブ・改行を入れない。）
- ・ 利用者の立場に立って、平易な記述を心がける。
- ・ 文字の大きさは 10.5 ポイント
- ・ 英数字：半角
- ・ 品種名は「」書き。
- ・ 生物の学名は初出時に属名を略さずに記載。
- ・ 年は、元号ではなく西暦で記載。
- ・ 使用不可；半角カナ文字、機種依存文字（丸囲み数字、ローマ数字、 ‰ 、 ‰ など）外字

[普及のための参考情報] (普及成果情報の場合)

[成果の活用面・留意点] (研究成果情報の場合)

- 1.
- 2.
- 3.

[具体的データ] 図表は4つ以内。鮮明なもの。「表1」「図1」等に続けて全角スペース1文字分を入れ、タイトルを記載（図表のフォントや文字サイズ自由）。タイトルはセンタリング。

表1 「恋の予感」の初期生育と収量調査結果	
式1 成熟期乾物重予測式	図2 圃場面積と作業性能の関係
図1 播種作業風景	

（農研太郎、機構花子）

（本成果情報の執筆責任者を明確にするために、著者を明示。都道府県で法人著作の場合は機関名を記載。複数名可。右揃え、直ぐ下の行から「その他」以降を記載）

[その他]

研究課題名：食料・農業・農村の動向・・・

予算区分：県単、委託プロ（○○○○○）等

研究期間：201○～2016年度（取り組み始めた年度）～（今年度）年度

単年度事業の場合、該当年度だけ記載（例）研究期間：2015 年度

研究担当者：農研太郎、機構花子、国立二郎（○○大農）

研究に携わった研究者全員を、名字と名前の間にスペースは入れないで記載。

氏名は「、」（全角読点）で区切る。

研究担当者が多く、2行以上にわたる場合、左寄せとし、インデントの設定はなし。

他法人・大学等の研究者については名前の後ろに（カッコ）付きで所属機関の略称を記入（複数の者が同じ所属の場合も省略しない）。

発表論文等：記載様式は、次頁の「参考 発表論文等の書き方」を参照し、箇条書きで主要な物を4件以内記載。

※該当がない場合は、本欄を設けない。

1)佐藤ら（2014）・・・

2)高橋（2015）・・・

※研究課題名、予算区分、研究期間については記載を任意とするが、研究担当者、発表論文等は必ず記載すること。

参考 発表論文等の書き方

- 日本語は MS 明朝・全角。
- 英字、数字、記号（括弧、コロン、ピリオド、ハイフン等）は Times New Roman・半角。
- フォントサイズは 10.5 ポイント
- ※以下、半角スペースは「」、全角スペースは「」を使って解説

0) 発表論文等の数について

○発表論文等が 1 つの場合は、「発表論文等：」の後に、番号を付けずに、コロンの後に続けて記載。

発表論文等：佐藤、高橋(2013)農研学雑誌、5(2):123-130

○発表論文等が 2 つ以上の場合は、「発表論文等：」の後に改行し、番号を付けて、スペースを入れずに記載（番号の数字と括弧は Times New Roman・半角）

発表論文等：

- 1)佐藤、高橋(2013)農研学雑誌、5(2):123-130
- 2)Satoh T. and Ito S. (2012) J. Kikou Sci. 22(1):56-61
- 3)Takahashi H. et al. (2011) J. Kikou Res. 53(3):125-132

1) 英語論文の場合

○著者名

日本人の場合 「名字」 + 「」 + 「名前のイニシャル（大文字）」 + 「`.`」ピリオド

○著者が二人の場合は著者名を「and」で繋ぎ、三人以上の場合は筆頭著者の後を「et al.」で記載。

○ボールド、イタリック、下線などの修飾は使わない。

○「著者名」 + 「」 + 「(西暦)」 + 「」 + 「誌名略称」 + 「」 + 「巻数(号数)」 + 「`:`」(コロン・半角) + 「開始ページ」 + 「`-`」(ハイフン・半角) + 「終了ページ」

注：最後にピリオドは付けない

発表論文等：

- 1)Satoh T. and Ito S. (2012) J. Kikou Sci. 22(1):56-61
- 2)Takahashi H. et al. (2011) J. Kikou Res. 53(3):125-132
(上記書式に当てはまらない例)
- 3)Nishio M. and Satoh M. (2014) PLoS ONE 9(1): e85792. doi:10.1371/journal.pone.0085792
- 4)Hirao Y. et al. (2013) Biol. Reprod. 89(3): 57, 1–11

○発表論文等の詳細が決定していない場合

「著者名」 + 「」 + 「(西暦)」 + 「」 + 「誌名略称」 + 「」 + 「投稿中 受理 印刷中」(審査状況を記す)

- 1)Satoh T. and Ito S. (2014) J. Kikou Sci. 投稿中
- 1)Satoh T. and Ito S. (2014) J. Kikou Sci. 受理
- 1)Satoh T. and Ito S. (2014) J. Kikou Sci. 印刷中

2) 和文論文の場合

○著者名

漢字表記ができる人の場合 「名字（漢字）」

漢字表記ができない人の場合 「名字（カタカナ）」

○著者が二人の場合は著者名を「、」（読点・全角）で繋ぎ、三人以上の場合は筆頭著者の後を「ら」で記載。

○「著者名」＋「(西暦)」＋「誌名略称」＋「、」（読点・全角）＋「巻数(号数)」＋「:」（コロン・半角）＋「開始ページ」＋「-」（ハイフン・半角）＋「終了ページ」

注：スペースは、半角、全角ともに、どこにも入らない

発表論文等：

1)佐藤、高橋(2013)農研学雑誌、5(2):123-130

2)岩渕ら(2013)日作紀、82(2):135-140

○発表論文等の詳細が決定していない場合

「著者名」＋「(西暦)」＋「誌名略称」＋「、」（読点・全角）＋「投稿中 受理 印刷中」（審査状況を記す）

1)佐藤、高橋(2014)農研学雑誌、投稿中

1)佐藤、高橋(2014)農研学雑誌、受理

1)佐藤、高橋(2014)農研学雑誌、印刷中

3) 和文図書の場合

○「著者名」＋「(西暦)」＋「章の見出し」＋「_」＋「編集者名」＋「編」＋「_」＋「書名」＋「_」＋「pp.」＋「開始ページ」＋「-」（ハイフン・半角）＋「終了ページ」＋「_」＋「発行所」＋「、」（読点・全角）＋「_」＋「発行地」

注：編集者名は入れなくてもよい

発表論文等：

1)永田(2008)誕生 遺伝暗号を読み解く 「たんぱく質の一生：生命活動の舞台裏」 pp.35-56 岩波書店、東京

2) 松森(2005)地理情報システムを用いた窒素負荷予測モデル 波多野隆介・犬伏和之編 「続・環境負荷を予測する」 pp. 60-79 博友社、東京

4) マニュアル、データベース、プログラムの場合

○著者が二人の場合は著者名を「、」（読点・全角）で繋ぎ、三人以上の場合は筆頭著者の後を「ら」で記載。

○「著者名」＋「(西暦)」＋「和文マニュアル名」＋「_」＋「URL」＋「_」＋「(掲載日)」

注：マニュアルの内容は「普及のための参考情報」や「成果の活用面・留意点」に記載し、URLや公開日等の情報は「発表論文等」に記載

注：農研機構が著作権を持つ場合は、「著者名」を「農研機構」で統一する

注：URL が決定していない場合は、各研究所のマニュアル一覧ページの URL

注：掲載日が決定していない場合は、掲載日を分かる範囲で書く

(2014 年春公開予定)、(2014 年 6 月公開予定)、(2013 年度公開予定)など

発表論文等：

1)農研機構(2014)「飛ばないナミテントウ利用技術マニュアル (研究成果集付き)」

http://www.naro.affrc.go.jp/warc/original_contents/tech/index.html (2014 年夏公開予定)

2)農研機構(2014)「高糖分飼料イネ「たちすずか」等に対応した 収穫・調製支援マニュアル」

http://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/051777.html (2014 年 3 月 20 日)

3)農研機構(2013)「Web 版農業版経営診断サービス-試行版-」

<http://fmrp.dc.affrc.go.jp/programs/> (2013年7月22日)

4)農研機構(2013)「農作物機能性成分データベース」 <http://fcdb.dc.affrc.go.jp/portal1/> (2013年度公開予定)

5)農研機構(2014)「ソバ春まき栽培マニュアル」

http://www.naro.affrc.go.jp/karc/contents/tec_manu/index.html (2014年公開予定)

5) 特許の場合

○著者が二人の場合は著者名を「、」(読点・全角)で繋ぎ、三人以上の場合は筆頭著者の後を「ら」で記載。

○「著者名」+「特許名(省略しない)」+「」+特許番号+「」+「(公開日または出願日)」
発表論文等：

1)佐藤ら「効率的な研究推進方法」特開 2013-123456 (2013年10月12日)

2)伊藤「ガラス温室管理ロボット」特願 2014-345678 (2014年5月15日)

注：特許が公開されている場合は、公開情報のみ記載(特許出願の内容は不要)

6) その他

・ウェブサイト・ウェブページ

「著者名(あれば)」+「」+「ウェブページの題名」+「」+「ウェブサイトの名称」+「、」(コンマ・半角)+「」+「URL」+「」+「(掲載日)」

発表論文等：

1)東京大学情報基盤センター学術情報リテラシー係編「情報探索ガイダンス」GACoS,

<http://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/gacos/training.html> (2010年2月2日)

・会議資料など

発表論文等：

1)津田ら(2014)「ジベレリンを活用した全粒播種用種いもの増収技術」平成25年度北海道農業試験会議

2)須田ら(2011)農林水産省平成22年度新需要創造フロンティア育成事業報告書